

再 評 価 書

箇所名	一般国道 422 号（下地志子）	事業名	道路事業	課 名	道路建設課 （尾鷲建設事務所）
事業概要	工 期 （下段当初）※1	平成 26 年度～令和 12 年度	全体事業費 （下段当初）※1	3,240 百万円（負担率：国 50%：県 50%）	
		平成 26 年度～令和 12 年度		3,240 百万円（負担率：国 50%：県 50%）	
事 業 目 的 及 び 内 容					
<p>■当該路線の状況</p> <p>一般国道 422 号は、滋賀県大津市から、甲賀市、奈良県御杖村、三重県伊賀市、名張市、津市、松阪市、大台町の 3 県 8 市町村を經由して北牟婁郡紀北町に至る延長約 176km の道路です。紀北町内においては、十須地区・大原地区・島原地区と紀北町中心市街地を結ぶ唯一の道路であり、鉄道が無い地域であることから、通勤、通学、通院、買い物等の日常生活を営むうえで、地域住民に欠かせない道路です。</p> <p>事業区間は、道幅が狭く普通車でも対向が困難な未改良区間があり、線形不良による視距確保が困難で危険な状況となっており、平成 30 年から令和 4 年度の過去 5 年間で計 6 件の事故が発生しています。また、過去には平成 16 年の台風 21 号等による赤羽川からの浸水により、下地地区、志子地区においても床上浸水などの甚大な被害を受けました。</p> <p>このようなことから、幅員狭小箇所及び線形不良箇所の解消を図り、災害時の際の迅速な避難行動や救援活動を支援するため、平成 26 年度に事業着手しました。</p> <p>一般国道 422 号（下地志子）の整備によって、十須地区・島原地区と紀北町中心部への走行性が向上し、安全・安心、快適な道路環境を形成します。また、災害発生時には、地域住民の避難ルートとしての機能を果たすことが期待されます。</p>					
<p>■事業目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全・安心、快適な道路環境の確保 ・災害時等における避難行動や救援活動の支援 ・多様な交流を促進する広域的な道路ネットワークの形成 					
<p>■事業内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業計画期間 17 年間（平成 26 年度～令和 12 年度） ・全体事業費 3,240 百万円（工事費：2,903 百万円，用地費：337 百万円） ・計画延長 L=1.8km（起点）紀北町島原～（終点）紀北町東長島 ・幅 員 W=6.00m（9.75m） ・主要構造物 トンネル 1 本、橋梁 2 橋 					
事 業 主 体 の 再 評 価 結 果					
<p>1 再評価を行った理由</p> <p>平成 26 年度に事業採択後、一定期間（10 年）を経過し、継続中の事業であるため、三重県公共事業再評価実施要綱第 2 条（2）に基づき再評価を行いました。</p>					
<p>2 事業の進捗状況と今後の見込み</p> <p>2-1 事業の進捗状況</p> <p>① 令和 5 年 3 月末時点の事業進捗率は事業費ベースで 23%（工事 17%，用地 74%）となっています。</p> <p>② 令和 4 年度までに、延長 0.34km が供用済みです。</p> <p>2-2 今後の見込み</p> <p>令和 12 年度の全線供用に向け、事業を推進します。</p> <p>整備完了後は、緊急輸送道路に指定する予定です。</p>					

3 事業を巡る社会経済情勢等の変化

地域住民にとって、当路線が生活をするうえで欠かすことができない道路であることは変わっておらず、引き続き早急な対処が望まれるため、事業の必要性に変更はありません。

さらに、当事業区間が災害時に道路啓開を行うくしの歯ルートに選定され、防災上の重要度も高まっています。

4 事業採択時の費用対効果分析の要因の変化、地元意向の変化等

4-1 費用対効果分析

① 前回評価時の費用対効果分析の結果 ※2

【前回評価時】

総費用 (C) 20.0 億円

総便益 (B) 28.6 億円

費用便益比 (B/C) 1.4

②費用対効果分析の結果 ※3

費用便益比 (B/C)	総費用 (C) (残事業) / (事業全体)	総便益 (B) (残事業) / (事業全体)
【事業全体】 1.3	20.2 億円 / 29.3 億円 事業費 : 19.6 億円 / 28.7 億円 維持管理費 : 0.6 億円 / 0.6 億円	34.6 億円 / 38.5 億円 走行時間短縮便益 : 32.1 億円 / 35.7 億円 走行経費減少便益 : 2.5 億円 / 2.7 億円 交通事故減少便益 : 0.04 億円 / 0.1 億円
【残事業】 1.7		

③感度分析の結果 ※4

【事業全体】	【残事業】
交通量 : B/C = 1.3 ~ 1.4 (±10%)	交通量 : B/C = 1.7 ~ 1.8 (±10%)
事業費 : B/C = 1.2 ~ 1.4 (±10%)	事業費 : B/C = 1.6 ~ 1.9 (±10%)
事業期間 : B/C = 1.2 ~ 1.5 (±20%)	事業期間 : B/C = 1.6 ~ 1.8 (±20%)

※出典：費用便益分析マニュアル（令和4年2月 国土交通省 道路局 都市局）

4-2 その他の効果

① 道路利用者が安全・安心に利用できる道路整備

- ・当事業区間においては、過去5年間で6件の事故が発生しています。また日常生活を営むうえで、地域住民は当路線を頻繁に利用しており、狭小箇所・線形不良箇所は、日々負担となっています。
- ・下地志子の整備により、地域住民が安全・安心に通行できるようになり、日常生活の移動の支援に寄与します。

② 台風等災害発生時の避難行動の支援

- ・台風等による大規模な浸水被害や南海トラフ地震等の大規模な災害が発生した際は、中部版くしの歯作戦の活動・物資輸送拠点となる赤羽公園多目的広場が活動拠点となります。
- ・下地志子の整備により、赤羽公園多目的広場から紀伊長島 IC との連携が強化され、より円滑な活動支援が可能となります。

③ 道路ネットワークの強化と地域産業の振興

- ・下地志子を含めた国道422号の道路整備により、道路ネットワークが強化され、熊野古道・熊野灘臨海公園などへの観光地への誘客等が見込まれます。

④ 救急医療活動の支援

- ・十須地区・島原地区での火災等の災害発生時や、町内及び尾鷲市内等の医療機関への迅速な緊急・消防活動が可能となり、住民の安心な暮らしを確保します。
- ・下地志子の整備により、紀北町中心部や紀伊長島 IC へのアクセス性が強化され、緊急医療活動の支援に寄与します。

<p>4-3 地元意向</p> <p>当該路線が通過する関係5市町による「三重南北縦貫道路建設促進期成同盟会」が設立されており、物流及び観光を目的とした広域交流に繋がる道路として、また、地元自治体である紀北町からは、地域の生活環境を向上させる防災上重要な道路として、事業の早期完成を期待されています。</p>
<p>5 コスト削減の可能性や代替案立案の可能性</p> <p>5-1 コスト削減</p> <p>下地工区においては、トンネルの掘削により発生した土砂を盛土部に利用することで、盛土材料費を削減します。また、トンネルに設置する照明については、従来の低圧ナトリウム灯ではなく LED 照明を用いることにより維持管理費（電気代・交換頻度）の削減を図ります。</p> <p>5-2 代替案</p> <p>代替案としては、現道拡幅案が考えられるが、拡幅に伴い、人家が連坦している箇所への用地補償や急峻な山の部分の掘削と法面対策が必要となります。さらに、用地買収の7割が完了し、工事に着手していることからバイパス案（現計画）が最適と考えます。</p>
<p>再 評 価 の 経 緯</p>
<p>当事業は平成26年度に事業着手しており、今回初めての再評価を行います。</p>
<p>事 業 主 体 の 対 応 方 針</p>
<p>三重県公共事業再評価実施要項第3条の視点により再評価を行った結果、同様項第5条第1項に該当すると判断されるため、当事業を継続したいと考えています。</p>
<p>委員会意見の概要【事業方針作成時に記述】</p>
<p>事業継続の妥当性が認められたことから事業継続を了承する。</p>
<p>対応方針【事業方針作成時に記述】</p>
<p>審査の結果、事業継続の妥当性が認められたことから、事業効果の早期発現に向け事業を継続して実施していきます。</p>
<p>事業方針の概要【事業方針作成時に記述】</p>
<p>計画的な事業執行には、円滑な用地確保や予算の確保が必要です。地元関係者へ事業内容や事業の影響を丁寧に説明し、円滑に用地交渉が進むように努めます。また、道路の必要性を国へ説明するなど、計画的な事業執行が図れるよう予算確保に努めます。</p>

※1 再評価実施事業は(下段前回)とし、前回再評価時の内容を記載する。未実施の場合は(下段当初)とし、当初計画時の内容を記載する。

※2 再評価実施事業は、前回再評価時の内容を記載する。未実施の場合は、当初計画時の内容を記載する。

※3 当該事業を所管する省庁の費用便益分析手法に従い費用対効果分析の結果を記載する。

※4 当該事業を所管する省庁の費用便益分析手法に従い感度分析の結果を記載する。